

# 水元保育園の保育理念「こそだち」

~~子ども = 育てられる~~

子ども = 自ら育つ

水元保育園では

**「子どもが自ら育とうとするのを見守り、時に手助けする存在」**

であることを念頭に日々の保育を行っています。

## 園で目指している子どもの姿はこの3つ！！

① 自己肯定感が育まれている

⇒自分のことが好きな人間は心にゆとりができ、周囲の人を大切にできる人間に成長していきます。(子どもも大人も一緒)

② 自分で考え、行動する力を持つ子ども

⇒子どもたちには人の指示を待つのではなく、主体的に行動できる人間に成長してほしいと考えています。

③ やりたいことを見つけてとことん取り組む子ども

⇒自分が興味を持ったことに没頭する経験を積み重ねることで集中力や主体性が培われていきます。

「子どものやりたい」を保障するために水元保育園では学年で区切らずに発達に合わせた保育を実践しています。

## まとめると…

自分のことを認められる経験が十分にあると子どもの中には“自分は自分でいい”という思いが芽生えていきます。

こうして自己肯定感が育まれるとどうなるか？

⇒自分の意思で行動するように！

「自分は目標を達成できる」と思えば行動する確率は高まり、  
「自分には無理」と思えば行動が起こりにくくなるのは当然ですね。

自分の意思で行動する⇒自分のやりたいことをみつけ、色々と試行錯誤しながらとことん取り組む人間に成長していく

世界的に見て日本人が低いとよく言われている“自己肯定感”  
これが育まれるとこれらの姿に繋がっていきます。

## これらの姿に繋がるために…

- ・子どものありのままを受け止める  
例)おもちゃを全部1人占め
- ・子どもの思いを尊重する  
1人の人間として向き合い、指示や指導ではなく対話的な関わりをしていきます。
- ・子どもの“やりたい”を保障する環境づくり  
興味を持った時に手を伸ばせる、行うことができるように園内の環境整備を進めています。

子どもが失敗した時は…

~~「だから言ったでしょ！」~~

**「Good job !!」**

**いい経験になったね！**

こんな感じで肯定的な見方や関わり方を大切にしています。

なぜ子どものも主体性を大切にしているのか？  
それは今の時代にも大きく関係しています

みなさんは現在の子どもたちが大人になった時、

社会がどうなっていると思いますか？

## 2040年の社会とは？

どうなっているんでしょうね笑 想像もつきません。

極端な比較対象として江戸時代について考えてみます

あなたは代々続く農家の息子として生まれました  
さてあなたが大人になる20年後の世の中はどうなっているのでしょうか？  
⇒おそらくそこまで変化はないでしょう。

この時代であれば、両親や祖父母など先人の生きていく中でのノウハウはとても貴重だと思います。

いわゆる「亀の甲より年の功」というやつですね。

では今の時代でも同じことが言えるでしょうか？

⇒私は年の功の価値が落ちていると思います。

全てが役立たないとは言いません。

ですが、世の中の流れが速い現代において、今の常識が20年後の世界で通用しない部分も多く出てくることは簡単に想像できます。

我々大人ですら想像のつかない未知数の時代を生きていく子どもたちにとって必要な力は『**自分で考えて行動する力**』です。

**子どもたちには是非私たち大人を超えて  
いって欲しいものです！**



## 昨年度の卒園式をご紹介します

行事は基本的に年長の子どもたちが中心となり、内容を決める所から行っています。

保育園生活最後の行事となる卒園式はある意味今までの集大成。子どもたちらしい内容がたくさん詰まっています。

昨年度は式の中でソーラン節を踊ることに！準備も話し合いながら進めていきました。



レツジョエミリア 百の言葉

子どもには 百とおりある。

子どもには百のことば 百の手

百の考え 百の遊び方や話し方

百の聞き方 驚き方 愛し方

歌ったり理解するのに百の喜び

発見するのに百の世界

発明するのに百の世界

夢見るのに百の世界がある

子どもには百のことばがある

それからもつともつともつと

けれど九十九は奪われる

学校や文化が頭とからだをばらばらにする

そして子どもに言う

手を使わずに考えなさい

頭を使わずにやりなさい

話さずに聞きなさい

ふざけずに理解しなさい

愛したり驚いたり復活祭とクリスマスだけ

そして子どもに言う

目の前にある世界を発見しなさい

そして百のうち九十九を奪ってしまう

そして子どもに言う

遊びと仕事 現実と空想 科学と想像 空と大地

道理と夢は一緒にはならないものだ

つまり百なんかかないと言う

子どもはいう でも百はある

# 詩を一つご紹介